

令和元年(平成31年)度 学校自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3 様々な教育活動をとらして、他人を思いやり、友情を育み、心身ともに健全な態度を養う。 4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。
-------------------	---

評価項目	評価の具体項目	年度当初		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策
1 心身ともにすこやかな生徒の育成	基本的な生活習慣の確立・マナーの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は防げる遅刻が40回と多かったが、5月23日現在、3回と例年並みのスタートとなっている。 多くの生徒が、端正な服装、マナー・エチケットを意識して過ごしているが、校外においては不十分なところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心とした自治活動が盛んで、防げる遅刻回数目標値が24回を下回っている。 平素から身だしなみを意識して過ごしており、再点検がゼロとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部が中心となり、遅刻防止を啓発する。 時間を守ることの大切さを伝えるとともに、遅刻届を活用する。 服装点検を月1回実施し、全職員が小さな違反を見逃さない姿勢持つとともに、日頃から共通理解のもとで指導する。
	望ましい人間関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育全体計画のもとに特別活動における人権教育の充実が系統的にすすめられており、教職員研修も充実している。人権課題を抱えた生徒に寄り添いながら学習活動を展開したり、自らとの「関係」として捉え、主体的に向き合っていくまでには至っていない。 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外部機関と連携をとり、課題を抱える生徒に寄り添いながら教育相談活動を行っている。認知の変容、自我理解の深化を試みてはいるが、自らの力で環境調整をするまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめや差別のない、望ましい人間関係が構築できている。 人権問題を自らの問題として捉え、差別解消・社会変革に向けて他者と積極的に関わられる主体が育成されている。 生徒が抱える課題について、特別支援教育の観点に立って全職員が共通理解し、課題解決のための支援や対策を講じている。 スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを有効に活用できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育LHRを中心に事前の教職員学習会をもとに解放研部員・人権教育推進委員のLHRへの参画促進と事後研修及び教職員研修の充実を図る。 解放研活動の活性化を図る。 公開人権教育LHRに向け、PTA人権教育推進委員会の活性化を図る。 各分掌・学年職員との連携の場や職員研修をとおして、各課題について対応策を協議し、支援活動を行う。 生徒・保護者・教職員の自己理解・相互理解のために、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーや関係機関と連携し、教育相談活動を行う。
	部活動と生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> 実質的に前年度踏襲的かつ教職員主導の生徒会活動となっている。 部活動加入率は95%(2019年5月)である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが主体的に生徒会行事や部活動に関わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒相互および教職員との丁寧な議論の積み重ねを通して執行部の育成をすすめる。生徒自治の保障(決定事項の尊重)を通して生徒の生徒会観の構築を図る。 運動部/文化部活動に関わる方針」を踏まえ効率的な活動を進める。器具・部室管理を通して自主・自律の精神を涵養する。 部活動に加入していない生徒については、担任・保護者と連携を取りながら、生徒会執行部や校外サークル活動、ボランティア活動等への参加を進める。
2 夢や希望をかなえられる学校づくり	キャリア教育・ふるさと教育の充実 【M:機械科、E:電気科、C:ビジネス科、D:生活デザイン科】	<ul style="list-style-type: none"> 1年生が地元企業を3か所見学し、企業の取り組みを理解するとともに学習や実習の内容が現場とつながっていることを認識した。(M) 鳥取県電業協会中部支部との共同作業で、倉吉交流プラザにイルミネーションを取り付け、地域に貢献した。(E) インターンシップ(12月)・デュアルシステム(7月、12月)を実施した。(C) 地域や社会における生活に関係のある課題の解決を図ることをとおして、地域の理解に努めた。(D) 2学期から3学期にかけて先輩に学ぶを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育やふるさと教育等とおして、地元企業に対する理解が深まり、仮に県外に進学したとしても、将来的に多くの生徒が県内に戻り就職や起業をしたいと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習をとおして進路意識を啓発するとともに、地元企業の見学や講演等により地元意識を高める。(M・E) インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実させるとともに、インターンシップに関する事項を、関係する分掌、学科、学年と連携し、協力して推進にあたる。(C) 生活デザイン科に関わる交流や講習等とおして、地元に対する意識を高める。(D)
	進路実現	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度年度内の就職内定率は99%であった。 進学60名、四年制大学5名(国公立2名)、短大12名、専門学校41名、ポリテク2名であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度内に就職内定100%となっている。 希望進学先に合格が決まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年担任団と密接な連携をはかる。 適切な進路指導と情報を提供する。 進学者のための課外授業等を行う。
	資格・検定取得の促進	<ul style="list-style-type: none"> 各種検定取得に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格、検定の上位級取得を目標に積極的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格や検定の意義や取得に取り組む重要性を生徒に理解させる。 長期休業中や放課後に資格取得、検定合格のための課外授業を実施する。
3 地域・地元を愛され、信頼される学校づくり	教育活動の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス科生徒が作成した学校カレンダーを、学校外の企業や中学校等に配り、情報発信に努めている。 ホームページの記事の掲載について随時呼び掛けているが、頻りに記事を更新している部活動があれば、全然できていない部活動もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、部活動の大会成績などの記事がホームページに随時掲載されており、本校の活動の様子が地域に知れ渡っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに、記事の更新数をチェックし、1回も記事を更新していない部活動には、記事更新を依頼する。 学校行事については、総務部が各担当にホームページへの記事の掲載を積極的に依頼する。
	地域との交流促進 【M:機械科、E:電気科、C:ビジネス科、D:生活デザイン科】	<ul style="list-style-type: none"> 中部子ども科学まつりや地元公民館との共同企画で小学生をはじめ幅広い年齢の方と交流ができた。(M) 中学生工作教室を長期休業中に2回行うことができた。(E) 「チャレンジショップくらそうや」「くらそうサロン」「くらそうビジネスセミナー」がそれぞれのやり方で交流した。(C) 小学生や福祉施設の方々と交流を行っている。生徒が主体的に交流を行っている。(D) 	<ul style="list-style-type: none"> 他者との関わりの中で場にふさわしいコミュニケーションができる。HPなどを活用し本校の取組が理解されている。(M) 中学生工作教室の参加人数が増え、年間2回行われている。(E) 「チャレンジショップくらそうや」「くらそうサロン」「くらそうビジネスセミナー」をとおして、地域との連携が深まっている。(C) 異年齢の方々や交流することによりコミュニケーション能力が高まっている。(D) 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ機会をとらえ交流の場をつくる。(M) 学校ホームページ等で電気科の取組状況随時掲載し、科のPRに努める。(E) 「チャレンジショップくらそうや」「くらそうサロン」「くらそうビジネスセミナー」をとおして、積極的に地域に出向き交流機会を増やす。(C) 社会人講師や施設の方々の意見を伺いながら、交流の計画を行う。また、学習した知識や技術をいかし、生徒が主体的となって交流できるよう指導する(D)
	PTAとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 役員会や各種委員会で出された意見については臨機応変に対応ができています。 委員さんは熱心に活動していただいているが、会員さんのPTA行事への参加率は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会をはじめ、PTA主催の各種行事に多くの会員が参加しており、活発に活動がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者は担任や部活動顧問等と話ができることを希望している場合が多く、教職員と話合える機会を行事に設け、保護者の参加を促す。
4 専門教育の推進	地域産業界との連携 【M:機械科、E:電気科】	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業見学を生徒、科教員が実施し、学習内容が現場でどのように活かされているか理解できた。自動車整備振興会の協力を得て自動車整備体験の場を設けることができた。鳥取県職業能力開発協会から技能士を派遣していただき、技能指導を実施した。(M) 鳥取県電業協会中部支部とのネットワーク会議を2回開催し、各事業を連携して取り組んでいる。また、同協会に高校生ものづくりコンテストの指導を受け、中国大会出場権を獲得した。(E) 	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶことの意義を一人ひとりが感じ、意欲的に学習に取り組む、体験活動をとおして自分自身の進路を考えている。(M) 鳥取県電業協会中部支部とのネットワーク会議をとおして、各事業を連携して取り組んでいる。 高校生ものづくりコンテストにおいて上位に入賞している。(E) 	<ul style="list-style-type: none"> 産業界との関りを継続し、産業界の求める教育内容、人材の育成に努める。(M) 電気工学科の活動において、複数の科職員が作品の指導・評価を行う。 鳥取県電業協会中部支部の指導を受け、技術の向上を図る。(E)
	学科の枠を超えた連携 【M:機械科、E:電気科、C:ビジネス科、D:生活デザイン科】	<ul style="list-style-type: none"> 校内施設の修理、改善や他科からの製作依頼(ペーパーサート台)など要望に応えることができた。(M) 課題研究「くらそうや」の期間中に「おもちゃの病院」を実施している。また、電線(銅線)を使った商品を提供している。(E) 「チャレンジショップくらそうや」をとおして、学科間連携が進んだ。電気科から「おもちゃの病院」、生活デザイン科からは作品提供があった。(C) 生活デザイン科は、くらそうやへ商品を製作し提供しているが、顧客のニーズに合った商品が作れない実態がある。(D) 	<ul style="list-style-type: none"> 他者からの要望に応えることで認められた喜びやものづくりの楽しさを感じることができた。(M) くらそうやに電気科として「おもちゃの病院」及び「商品提供」ができています。(E) 課題研究「くらそうや」をとおして学科間連携が進んでいる。(C) 商品を開発し、くらそうやで生活デザイン科の生徒が販売している。(D) 	<ul style="list-style-type: none"> 他科のみならず、校内外の様々な要望に応える。(M) 課題研究「テクニカルボランティア」をとおして「おもちゃの病院」を行う。電気工学科と連携して商品提供を行う。(E) 「くらそうや」において他学科の生徒の販売実習を検討する。(C) ビジネス科と連携し、アンケートを実施するなど顧客のニーズにあった商品を提供する(D)
5 業務改善の取組み	長時間勤務者の解消	<ul style="list-style-type: none"> 教員等の平成29年度比月当たり時間外業務は1%削減(42.0時間→41.6時間)であった。 月時間外業務100時間以上は10人で27回であった。産業医との面接指導を全員に対して実施した。 時間外業務の約70%を部活動指導・大会引率が占めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 月当たりの時間外業務が、平成29年度比で15%削減できている。 部活動休養日が、週当たり1日実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 週休日振替、年休、夏季休暇等の取得を推奨する。 業務に偏りが生じないよう、分散化を図る。 毎月の部活動計画の提出を徹底し、点検・指導する。